

2020年3月期第2四半期決算

将来情報に関するご注意

資料に記載されている業績見通しは、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、業績を確約するものではありません。実際の業績等は、内外主要市場の経済状況や為替相場の変動など様々な要因により大きく異なる可能性があります。重要な変更事象等が発生した場合は、適時開示等にてお知らせします。

2019年11月1日
双日株式会社

2020年3月期 第2四半期決算サマリー

- 世界経済の減速や、資源価格の下落による影響もあり、
通期見通しに対する進捗率は41%

| | 18/9期 実績 | 19/9期 実績 | 前年同期比 増減 | 20/3期 期初見通し | 20/3期 修正見通し (19/11/1公表) | 進捗率 (対期初見通し) |
|-------------------|-------------|-------------|-------------|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 当期純利益 (当社株主帰属) | 371億円 | 295億円 | ▲76億円 | 720億円 | 720億円 | 41% |
| ROA | - | - | - | 3.1% | 3.1% | - |
| ROE | - | - | - | 11.3% | 11.6% | - |

- ✓ 米中貿易摩擦の影響や、中国経済成長の減速が顕在化し始め、
世界経済を巡る不確実性が高まる
- ✓ 今後も、米中貿易摩擦や為替、商品市況の新興国経済に与える影響等を
引き続き注視

- 厳しい事業環境下、徹底的なコストの見直し等により
通期見通し720億円を据え置く

- 中間配当は予定通り8.5円、年間配当予定は17円



Copyright © Sojitz Corporation 2019

2

- 当社の2020年3月期第2四半期の決算について、上期実績は
全社で進捗率41%。世界経済の減速や資源価格の下落等、
当社を取り巻く事業環境は期初の想定と比べ、厳しいものとなった。
- 下期に向けても、米中交渉の行方や中東情勢等、先行き不透明で、
厳しい事業環境は続くとしている。
- この環境下、当社は徹底してコストの見直しや中計期間中の投融資・
資産入替などに取り組んでおり、下期にはこれらの効果も効いてくると
見ていることから、20年3月期当期純利益見通し720億円については
変更はない。
- 中間配当は、予定通り8.5円とし、年間配当予想も17円から変更
はない。

通期見通し達成に向けて

徹底的なコストの見直しを中心に、通期見通し達成に邁進

① 徹底的なコストの見直し

- ✓ 資源権益の操業費用見直し
- ✓ 赤字会社に対する継続的な改善フォロー
- ✓ 期初計画案件の実現確度や不要不急の費用見直し

② 収益化スケジュールの見直し

- ✓ 中計2020期間中における、投融資・入替スケジュールの見直しを通じた収益の積み上げ

③ 実行済み投融資案件からの着実な収益化

- ✓ 投融資実行後の案件進捗フォローの継続

- 通期見通し達成に向けて現在進めている主な取り組みについて、
まず徹底的なコストの見直しであり、販管費や金利・税金の見直しは
もちろんのこと、資源権益の操業費の更なる効率化や赤字会社
に対する継続的なフォロー、期初に計画していた案件の実現性を
再確認し、不要不急の費用の見直しを試みている。
- 次に、中計2020の期間中における投融資・資産入替のスケジュールを
見直した。今期で保有資産の収益化が最大化するものは、それを
実行し、また、投融資案件の組成が現実的になりつつあるものは、
実行を計画するなど、中計の投融資・入替のスケジュールを見直し、
実行することで、今期見通し達成に邁進している。
- 最後に、実行済み投融資案件からの着実な収益化で、厳しい環境下
だからこそ、投融資実行後の案件進捗フォローをしっかり継続し、
着実な収益化を進めていくことで、当社の着実な成長に繋げていく。

2020年3月期 第2四半期決算（当期純利益）

第2四半期までの進捗を踏まえ、
エネルギー・社会インフラ、金属・資源、食料・アグリビジネス3本部の通期見通しを修正

| (億円) | 19/9期 実績 | 20/3期 期初見通し | 進捗率 対期初見通し | 20/3期 修正見通し | 進捗率 対修正見通し |
|-------------------|-------------|----------------|---------------|----------------|---------------|
| 当期純利益 (当社株主帰属) | 295 | 720 | 41% | 720 | |
| 自動車 | 15 | 55 | 27% | 55 | |
| 航空産業・交通PJ | 6 | 50 | 12% | 50 | |
| 機械・医療インフラ | 15 | 45 | 33% | 45 | |
| エネルギー・社会インフラ | 34 | 55 | 62% | 80 | 43% |
| 金属・資源 | 98 | 250 | 39% | 235 | 42% |
| 化学 | 48 | 110 | 44% | 110 | |
| 食料・アグリビジネス | 12 | 45 | 27% | 20 | 60% |
| リテール・生活産業 | 28 | 75 | 37% | 75 | |
| 産業基盤・都市開発 | 6 | 10 | 60% | 10 | |

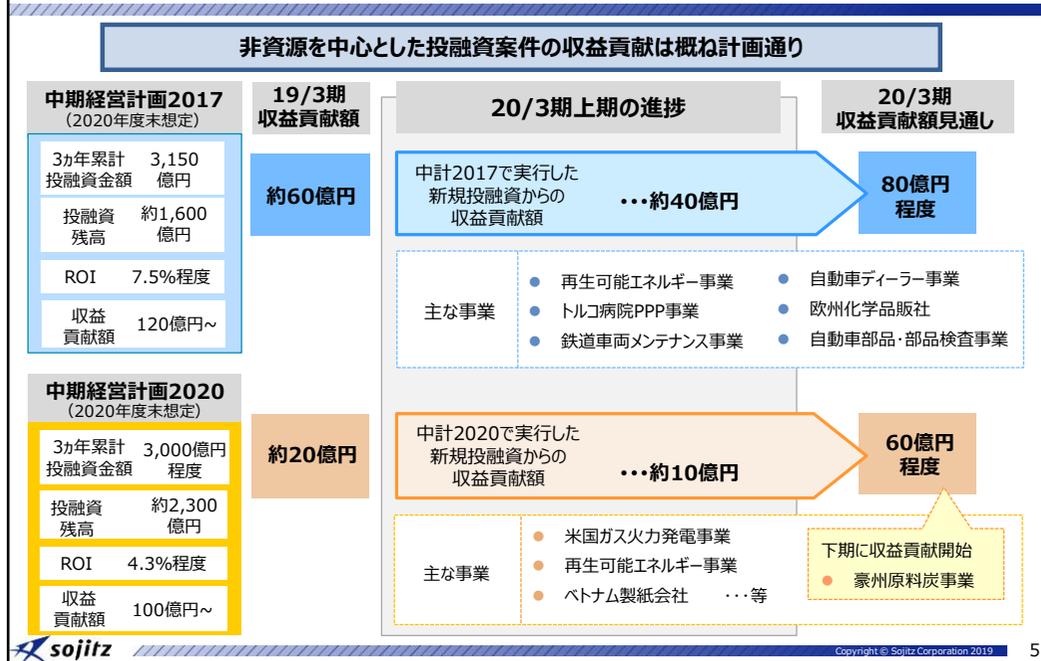


Copyright © Sojitz Corporation 2019

4

- 上期実績を踏まえて、一部のセグメントの通期見通しを修正した。
- 金属・資源本部は足元の資源価格を踏まえて250億円から235億円へ、食料・アグリビジネス本部は肥料事業や国内水産事業の不調を反映し、見通しを45億円から20億円へそれぞれ引き下げた。
- 一方で、エネルギー・社会インフラ本部については、上期での石油権益売却や、再生可能エネルギー事業をはじめとして、新規事業が着実に収益貢献しており、55億円の期初計画を80億円へ上方修正している。

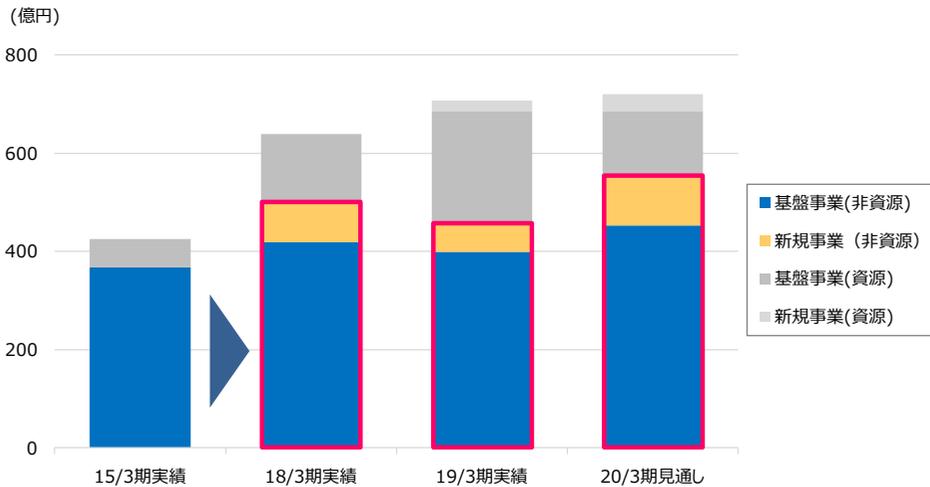
実行済み投融資からの収益貢献



- 前中計及び、今中計の実行済み投融資からの収益貢献について、上期における中計2017・中計2020で実行済み投融資からの収益貢献額は、非資源事業を中心に約50億円と、概ね計画通り進捗し、これまでの取り組みの成果が表れてきている。
- 下期についても同様で、通期での収益貢献は、見通し通り140億円程度を見込んでいる。
- また、実行済みの新規投融資についても、上期では約370億円と実行出来ており、3カ年累計での投融資見込みに対して、計画通り進捗している。
- 引き続き、実行済み案件の収益化を最大化させると共に、着実な成長、更なる成長に向けた投資を継続していく。

収益構成の変化

新規投融資からの収益貢献により、
非資源事業を中心に収益力は着実に強化へ



- これより、中長期目線での、これまでの経営の取り組みについて。
- 収益ポートフォリオの変化について示しており、前中計が開始して以降の非資源事業からの収益貢献額を赤枠で囲っているが、特にオレンジ色で示している新規投融資からの収益貢献は、着実に進んできた。
- 具体的には、国内外で展開する再生可能エネルギー事業は、開発収益・オペレーション収益・キャピタルゲインと、双日において新しい収益モデルを確立し、安定的に収益貢献している。
- 既存事業については、環境の変化により好調・不調はあるが、安定収益基盤の構築を進めていることに変わりはない。

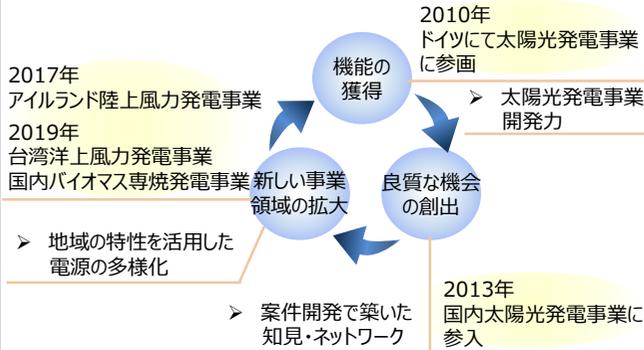
注目事業の機能と進捗（再生可能エネルギー事業）

案件発掘から事業化まで一貫した開発機能を活かし、持続可能で安心・安全・快適な生活を実現する高度な社会インフラ構築への貢献を推進

◆競争優位性とその獲得経緯

強み

太陽光発電事業開発で培った総合的な開発力・ネットワーク



◆今後の見通し

地域の幅出しや新規案件開発により、更なる収益基盤の強化を進めるとともに、情報通信技術分野からエネルギー利用効率の改善等、社会課題への対応を目指す。

<具体的な施策>

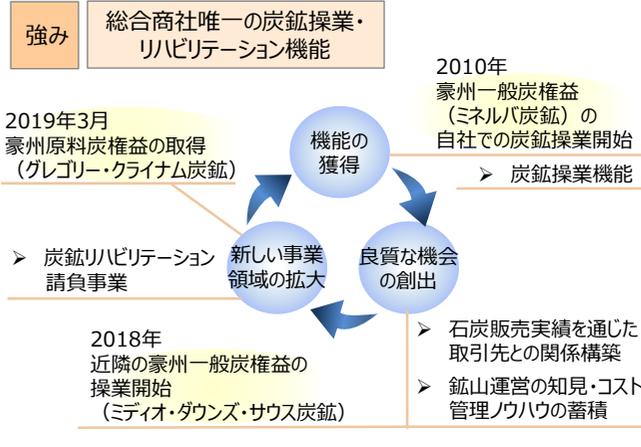
- 洋上風力・バイオマス・地熱等、電源多様化への取組み加速
- 電力自由化市場における下流事業の展開（エネルギーマネジメント）

- 持続的な成長に向け、当社の強みや機能を発揮して、価値を創出する事例について、本件は先程より説明させて頂いている再生可能エネルギー事業で、記載の内容をご参照頂きたい。

注目事業の機能と進捗（豪州原料炭事業）

過去から培ってきた炭鉱操業・リハビリテーション機能を活かし、
豪州グレゴリー・クライナム炭鉱での操業を開始

◆競争優位性とその獲得経緯



2019年10月 出荷開始
生産量想定：約300万トン/年
可採年数：10年以上(露天掘り)

◆今後の見通し

一般炭権益の入替えを進めつつ、従来のビジネスの枠に留まらない、新たな機能や価値を提案し、市況に左右されにくい強固な収益基盤の構築と、持続可能な社会の実現を目指す。

<具体的な施策>

- 周辺炭鉱へのリハビリテーション・操業請負展開を加速
- 環境保全に資する新規事業の検討

- 豪州原料炭事業では、当社は、豪州・インドネシアを中心に、過去から培ってきた炭鉱操業・リハビリテーション機能を強みとしている。
- 今年3月に取得した原料炭権益である、グレゴリー・クライナム炭鉱については、10月から生産・出荷を開始した。
今期は100万トンの生産計画としており、来期は本格的にフル寄与となる。

キャッシュ・フロー・マネジメント

基礎的営業CF、資産入替が順調に推移し、
フリー・キャッシュ・フロー（FCF）・基礎的CFともに大幅黒字

| | 19/3期 実績 | 19/9期 実績 | 中期経営計画2020 3か年累計 (19/3期～21/3期) |
|-------------|-------------|-------------|--------------------------------------|
| 基礎的営業CF（※1） | 790 億円 | 450 億円 | 約2,100 億円～ |
| 資産入替（回収） | 920 億円 | 130 億円 | 1,200 ～1,500 億円 |
| 新規投融資 他 | ▲910 億円 | ▲370 億円 | ▲2,700～▲3,000 億円 |
| 株主還元（※2） | ▲170 億円 | ▲120 億円 | 約▲600 億円 |
| 基礎的CF（※3） | 630 億円 | 90 億円 | 黒字 |
| FCF | 540 億円 | 400 億円 | 黒字 |

（※1）基礎的営業CF = 会計上の営業CFから運転資金増減を控除したもの

（※2）3か年累計は、中計最終年度の当期純利益目標750億円以上を元に概算

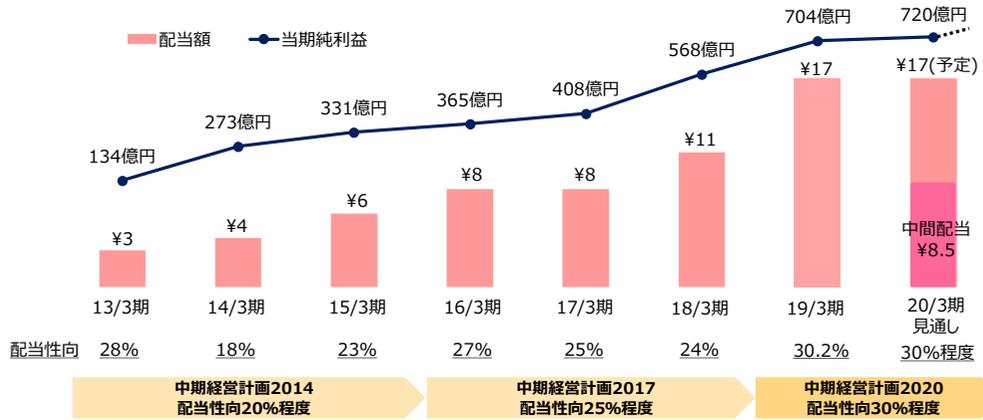
（※3）基礎的CF = 基礎的営業CF + 調整後投資CF - 支払配当金

- キャッシュ・フロー・マネジメントについて。中計2020においては、成長投資と株主還元は、期間収益と資産入替により創出されたキャッシュの範囲内で、マネージしていくこととしているが、上期においても、基礎的営業キャッシュフロー、資産入替が順調に進捗し、フリーキャッシュフロー・基礎的キャッシュフローともに大幅黒字となっている。
- 投融資計画においても、3年間累計で3,000億円を実行することは変わらず、基礎的キャッシュフローを黒字でマネージしていく。

配当政策

■ 配当に関する基本方針

安定的かつ継続的に配当を行うとともに、内部留保の拡充と有効活用によって企業競争力と株主価値を向上させることを経営の重要課題のひとつと位置付けております。中計2020では連結配当性向30%程度を基本としております。



Copyright © Sojitz Corporation 2019 10

- 当社の配当政策については、安定的・継続的な配当方針に変更はなく、引き続き、現中計期間においては配当性向を30%程度としている。
- 19年9月期決算では、期初計画通り、中間配当額を8.5円とした。
- 通期での1株当たり年間配当額17円にも変更はない。

格付評価

- ✓ 主要格付機関の格上げおよびアウトルック向上を達成
- ✓ 2019年9月には、当社設立以来、初めてとなるA-格を取得

| | 中計2017 (2017年度末) | 中計2020 (2019年9月末) |
|-----|---------------------|----------------------|
| JCR | BBB+ (ポジティブ) | A- (安定的) |
| R&I | BBB (安定的) | BBB+ (安定的) |
| S&P | BBB- (安定的) | BBB- (ポジティブ) |

- 外部評価について、格付機関より足元に於いて評価の見直しがあり、当社が安定的に収益を積み上げていることが評価され、JCRの格付けがBBB+からA-へ格上げとなりました。
- また、S&Pについても、アウトルックが「安定的」から「ポジティブ」に変更となっている。
- 次のステップにむけ、取り組みを進めていく。

ESG評価

世界的なESG株価指数である、FTSE、DJSIの対象銘柄への継続組み入れ
GPIFが採用するESG投資指数の構成銘柄にも連続選定

■ 国内外の主要インデックスへの組み入れ、ESG評価機関の評価

MEMBER OF
**Dow Jones
Sustainability Indices**
In collaboration with **SAM**
RobecoSAM brand

社会的責任投資のグローバル株価指数
「Dow Jones Sustainability Index(DJSI)」
「World」、及び「Asia Pacific」の構成銘柄に
2年連続で選定



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan

FTSE Russell社が提供する
「FTSE4Good Index Series」並びに
「FTSE Blossom Japan Index」の
構成銘柄に2年連続で選定



2019 Constituent
MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

「MSCI 日本株女性活躍指数」の
構成銘柄に3年連続で選定



Sustainability Award
Industry mover 2019

RobecoSAM 社による「企業のサステナビリティ格付け」で
「シルバークラス」、「インダストリー・ムーバー」に選定



Sustainability Award
Silver Class 2019



DISCLOSURE INSIGHT ACTION

2018年にCDPより気候変動において
「マネジメント」レベルのBと認定

3年連続の選定は商社初



女性活躍推進の取り組みが評価され、
3年連続で「なでしこ銘柄」に選定



Copyright © Sojitz Corporation 2019

12

- ESGの取り組みについても、引き続き評価を得ており、今後も持続的な成長の実現に向けて、財務面・非財務面ともに、強固な事業基盤を構築していく。
- 尚、配布している適時開示資料について、本件の目的は、コーポレートガバナンスコードの影響もあり、上場企業による政策保有株式縮減の動きが見込まれる中、当社株式の売却も進むことを想定し、その対応をするものである。
- 事業会社が保有する当社株式数を踏まえ、取得枠は30百万株とした。勿論、現時点での株価水準が割安だと考えていることも、今回決定した理由の一つである。
- 尚、本件は中計で掲げる連結配当性向30%を変更するものではなく、一時的、限定的な施策である。

◆ご参考：【適時開示】自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ

<https://www.sojitz.com/jp/news/docs/191101.pdf>